

# ユニセフ早分かり

## ユニセフとは…



ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動する国連機関です。第2次世界大戦で被災した子どもたちへの緊急支援を目的に、1946年の第1回国連総会で創設されました。現在、ユニセフは、「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」で定められている、子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を実現するために、その国の政府やコミュニティ、NGOや住民などと協力してさまざまな支援活動を実施しています。

## ユニセフの主な活動

### ユニセフ活動分野別の支出割合(2017年)

#### 子どもの保護

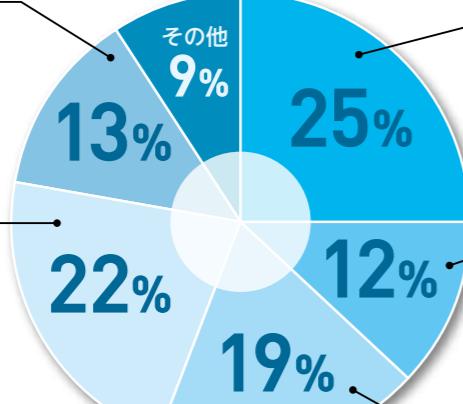
特に厳しい状況にある子どもたちを守る  
暴力の被害にあった子どもの保護、子どもの兵士の解放や社会復帰、人身売買や児童労働を防ぐ取り組みなど

#### 教育

すべての子どもが学校に行けるように



© UNICEF/UNI85063/Asselin



紛争や自然災害時の緊急支援活動もそれぞれの分野に含まれています。

#### 緊急支援

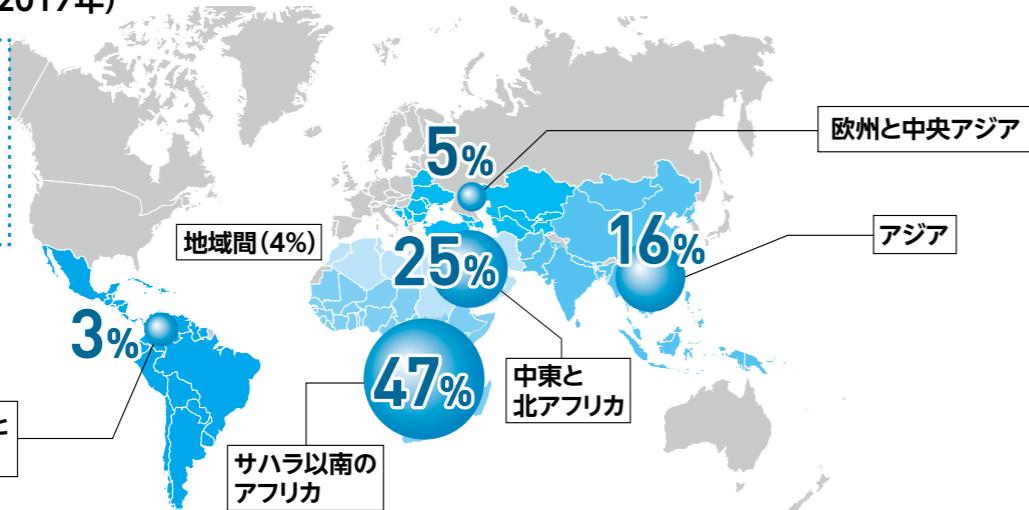
地震や洪水などの自然災害や紛争が発生したとき、ユニセフは、子どもたちを守るために、いち早く緊急支援活動に取り組みます。避難してきた人びとが暮らすキャンプは衛生状態が悪く、子どもたちが下痢や感染症にかかる危険性が高まります。家族を失ったり、体や心に傷を負ったりした子どもたちも大勢います。ユニセフは、テントや毛布、医薬品など、必要な支援物資を迅速に届けられる体制を整えています。また、「子どもにやさしい空間」を作ったり、できるだけ早く学校を開く手助けをしたりして、子どもたちが日常を取り戻し、安全に過ごせるように支援しています。

### 地域別の事業支出割合(2017年)

#### ユニセフの活動基準

- ① 5歳未満の子どもの死亡率
- ② その国の所得の水準
- ③ 子どもの人口

この3つを支援の基準にしています。



## ユニセフの歴史

1945年 第2次世界大戦が終り、国際連合(国連)が設立される(写真①)

1946年 第1回国連総会でUNICEF(国際連合児童緊急基金)を創設  
戦争で被害を受けた子どもへの緊急支援をはじめる



1949年 日本の子どもへのユニセフの緊急支援がはじまる—学校給食での粉ミルクなど

1953年 名称を「国際連合児童基金」と改め、活動を開発途上国の子どもへの長期的な支援へ広げる

1955年 財団法人日本ユニセフ協会設立

1959年 国連総会で「児童の権利宣言」採択

1964年 日本へのユニセフの支援が終わる(15年間の援助総額 当時の金額で約65億円)

1965年 ユニセフ、ノーベル平和賞を受賞(写真②)

1979年 国連総会が国際児童年と定め、ユニセフが中心となってキャンペーンを展開

1983年 ユニセフ「子ども健康革命」提唱 子どもの生存と健康のための支援事業に重点をおく

1989年 国連総会で「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」を採択(写真③)

1990年 「子どものための世界サミット」開催 世界159カ国から代表が参加  
子どもへの予防接種の普及率が80%に到達

1996年 ユニセフ創設50周年「ユニセフの使命」を発表する

1999年 ユニセフ、子どものライフサイクルー乳幼児期・学齢期・青年期に合わせた総合的支援活動をはじめる

2000年 国連ミレニアム・サミットにおいて、MDGsの基となる「国連ミレニアム宣言」が出される

2002年 「国連子ども特別総会」開催。21世紀の新たな子どものための目標を採択

2011年 内閣府の認定を受け、公益財団法人 日本ユニセフ協会に移行

2015年 国連持続可能な開発サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択される(写真④)

2016年 ユニセフ創設70周年

2019年 「子どもの権利条約」採択30周年



### 日本の子どもたちもユニセフの支援で元気になりました。

今は豊かになった日本ですが、第2次世界大戦後、人々は家を焼かれ、着る物も食べ物もなく、不衛生な環境の中での生活を強いられていました。そのような厳しい状況におかれれた日本の子どもたちをユニセフは支援をしました。1949年(昭和24年)から15年間にわたって、当時の金額で約65億円相当の大きな支援で、学校給食に使われた粉ミルク、毛布、衣類の材料となる原綿、医薬品などが提供されました。

2011年の東日本大震災発生時には、ユニセフの協力のもと、日本ユニセフ協会が被災地で支援活動を行いました。



### 大きなユニセフ・ファミリー

ユニセフが支援活動をしている国や地域には、現地事務所や地域事務所があり、その国の政府と一緒に活動しています。一方、ユニセフの支援を卒業した日本などの先進工業国には、民間でユニセフを代表するユニセフ協会があり、ユニセフの活動を支える募金活動や広報活動などを担っています。こうして、現在、ユニセフは190の国と地域において活動をしているのです。



### 日本ユニセフ協会の活動

日本ユニセフ協会は、個人のみなさん、団体や企業、自治体、報道機関や学校のみなさんから、ユニセフへの募金をおあずかりしてユニセフ本部へ届けています。また、ユニセフの活動や、世界の子どもたちの状況などについて日本国内でお伝えしたり、子どもの課題を解決するために政府などに働きかけたりしています。

